

「人の感動に、貪欲。」をコンセプトに、さまざまな企業のイベントプロデュースを行う Backbone 社のプロジェクトの裏側をお伝えする「BAKCBONEDetails」。第3回目の今回は、Hグループの社会イノベーション事業を支える一員として、サステナビリティ経営を推進するHS社の10周年イベントの裏側をお伝えする、インタビューシリーズの2本目です。

L 大野 亜紀 人事総務本部 総務部 庶務グループ 主任
R 田宮 義之 人事総務本部 総務部 管財グループ 主任

10周年を記念する本格的な 短編映画制作

本記事では、全世界同時中継イベントとして実施した本イベント当日に配信した、HS社の10周年を記念する映像作品の制作の裏側について、同社の大野さんと田宮さんに振り返っていただきました。

全世界同時中継での開催が決定した今回のイベントでは、全従業員の皆様のご自宅から視聴できるオンライン配信の強みを生かし、企業から従業員へのメッセージを伝える映像作品の制作を提案させていただきました。短編映画として制作した「となりのいいね!さん」は、もともと御社の従業員の方のエピソードを4コマ漫画で紹介するWebサイトのコンテンツでしたが、短編映画化にあたりエピソードはどのように選出されたのでしょうか?

田宮 「となりのいいね!さん」では、弊社が掲げる「7つの行動指針」を実践している従業員のエピソードを4コマ漫画として紹介していました。なので、短編映画化にあたってはそういった要素が特に感じられることを条件に、会社として伝えたい思いが込められているものや、10周年イベントのコンセプトとして掲げた「つながり」を表現できるエピソードを3つ選んでいます。

4コマ漫画を短編映画の脚本へ練り上げていく際に、我々のノウハウをつめ込んだ完成度の高い作品に仕上げたいと意気込むあまり、ストーリーをつくり込み過ぎてしまったことで、御社からご意見をいただく場面もありました。「フィクション性が高過ぎて、従業員のリアルな姿が感じられない」とご指摘をいただき、御社の10周年イベント

にかける強い思いを感じた次第です。振り返ってみても作品をより良いものにするための必要なプロセスだったと感じますし、あらためて感謝を申し上げます。

大野 短編映画を見る従業員のことを考えた結果、打ち合わせの場面では厳しい意見を申し上げさせていただいたかと思えます。出来上がったものを拝見し、映画作品のような本格的な仕上がりにには本当に感動しました。自分たちが普段制作する動画とはまったく違う、素晴らしいものを制作いただいたと思います。

今回は、日本を代表する映画制作会社の株式会社ロボットと一緒に映像を制作させていただきました。現場では、実際に日本映画の制作で使用されているプロ仕様の高級なカメラで撮影しました。撮影当日の現場のセットアップをご覧になった御社からは、お褒めの言葉をいただいたのを覚えています。

田宮 企画段階では、4コマ漫画がどのように短編映画になるだろうと感じていましたが、完成した作品を拝見し、率直に言って Backbone 社さんのすごさを感じました。実際に私も撮影現場に立ち合わせていただいていたので、制作の大変さを感じていましたし、完成した際には感極まるどころがありました。





全国の拠点にスポットを当てた「グループの旅」

御社が国内で展開するグループ会社や拠点のうち、地域ごとに7拠点を巡る「2万人がつながる」HSグループの旅（以下、グループの旅）では、各拠点の魅力を伝えるテレビ番組形式の映像を制作させていただきました。

フリーアナウンサーの辻よしなりさんをリポーターに迎え、若手従業員の方々に各拠点のオフィスや周辺のグルメスポットを紹介していただく内容でしたが、制作を振り返ってみていかがですか？

大野 拠点の中には、あまり規模の大きくないオフィスもあるので、番組として取り上げる際にきちんとおもしろくなるのか心配な部分もありましたが、それぞれ魅力的にご紹介いただいたと思っています。御社からのご提案はもちろん、番組の進行をされた辻さんのお力も大きかったように思います。私は四国と東北の拠点での撮影に同行しましたが、辻さんが若手従業員からうまく話を引き出していたり、番組を盛り上げていました。

制作にあたっては、放送作家とともに事前のお打ち合わせ内容を踏まえた企画構成と台本を制作し、熟練のディレクターとスタッフをアサインした上で撮影に臨みました。辻さんとは、本件に限らず普段からお仕事を一緒にして

いますが、打ち合わせの段階からご意見をいただいたり、現場の空気をほぐしていただいたりと、弊社も助けられる場面が多かったです。

田宮 私は九州での撮影に同行しましたが、はじめて足を運んだ拠点だったため、今回の機会を知ったことも多かったです。撮影終了後の夜、各拠点の方々と食事に行った際に、普段接する機会のない従業員とのつながりが生まれたことも有意義でした。

これまでの周年イベントで実施していた運動会では、各拠点から参加できる従業員の数は制限されてしまっていたため、こういった映像を制作することで、さまざまな拠点にスポットを当てる機



会が生み出したのは良かったと思います。

大野 事後アンケートでも、「グループの旅」が一番面白かったという声が多かったですね。弊社は拠点数が多く、離れて仕事をする仲間もいたため、映像を通じて別の拠点で働く同期の姿が見られる機会にもなった意義のあるコンテンツだったと感じています。

HS社の10周年を記念するイベント開催の裏側をお伝えしてきた本インタビューシリーズ。締めくくりとなる今回の記事では、イベント当日の様子を振り返りながら、今後の周年イベントにかけるHS社の想いを語っていただきます。

